

8 相棒の馬たちはちゃんと耕してるかい

(『シュロップシアの若者』27番)

「相棒の馬たちはちゃんと耕してるかい
おいらが生きてた時には
毎日 巧みな手綱さばきで
引き具の音を心地よく聞いてたものさ」

ああ おまえさんの馬たちは軽快な足取りで 5
今日も引き具を心地よく鳴らしているさ
いつも耕してた大地の下におまえさんが永眠^{ねむ}ったほかは
この世に何ら変わりは無いさ

「河川敷では
相変わらずサッカーをやってるかい 10
立ちほだかるおいらがいなくなっても
あいつら ボールを追っかけてるかい」

ああ ボールは飛び交い
みんな 全力でプレーしてるぜ
ゴールネットはちゃんと張られて 15
キーパーが阻止せんと仁王立ちさ」

「あいつは元気かい
別れるに忍びなかった恋人さ
もう そろそろ泣き疲れたかな
毎晩 あんなにいつも泣き濡れて」 20

ああ あいつは心浮き浮きおねんねだ
泣き濡れてなんかいないようだけ
おまえの女 ^{あいつ}はご満足にお休みさ
そっちも おとなしく眠りなよ

「おいらがこんなにやつれ果てても 25

友は心変わりしてないだろうな
少しは羽振りも良くなって
おいらよりましなベッドで寝てるだろうか」

ああ そうさ こっちはスヤスヤ
男なら誰でも羨む快眠さ
仏さんの恋人を慰めてやってるのさ
誰のかなんて 野暮なこと訊くんじゃないぜ

30

(山中光義訳)